

令和 3 年 第 8 回
富 山 県 教 育 委 員 会 会 議 録

I 開会及び閉会の日時

令和3年7月13日（火）

開会午後1時00分、閉会午後1時58分

II 場所

富山県民会館701号室

III 出席委員

1番	山崎 弘一	2番	鳥海 清司	3番	町野 利道
4番	村上 美也子	5番	大西 ゆかり	教育長	荻布 佳子

IV 説明出席者

教育次長	清原 明宏	教育次長	坪池 宏
教育企画課長	松井 邦弘	生涯学習・文化財室長	吉田 学
教職員課長	福島 潔	県立学校課長	佐野 友昭
小中学校課長	水戸 英之	保健体育課長	橋本 隆

V 傍聴人数 1人

VI 会議の要旨

午後1時00分、教育長が開会を宣する。

1 議決事項

議案第24号 令和4年度富山県立高等学校及び富山県立特別支援学校高等部・幼稚部の入学者選抜日程決定の件

議案第25号 令和4年度富山県立学校募集定員等決定の件
県立学校課長から説明し、原案のとおり可決した。

2 報告事項

- (1) 令和3年度中学校第3学年および義務教育学校第9学年生徒、県立高等学校全日制課程第3学年生徒の進路希望調査について
- (2) 富山県特別支援教育将来構想の策定について
県立学校課長より説明した。

3 その他

今後の教育委員会等の日程について
教育企画課主幹から説明した。

4 報告事項

午後1時41分、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項ただし書の規定に基づき、報告事項2件については、委員全員の同意により会議を非公開とすることを可決し、議事の審議に入った。

- (3) 登録有形文化財（建造物）の登録について
生涯学習・文化財室長より説明した。
- (4) 高岡工芸高校における保護者による剣道部員への暴力行為について
県立学校課長より説明した。

なお、非公開で審議した報告事項2件については、適切な時期に公表することを決定した。

5 議事

○議決事項について

議案第 24 号関係

[山崎委員]

- ・ 学科名の変更は、学習指導要領の変更に伴うものということだが、変更によってそれぞれどのようなことを教える学科になったのかということについては、アナウンスしなくてよいのか。

[県立学校課長]

- ・ 中学生等については、これから高等学校が説明に行くが、その際に学科名変更に伴い、どういった学習内容が入っているのか高等学校から中学校へしっかり説明していくこととしたいと考えている。

[町野委員]

- ・ 募集率が71%くらいである。二十何%は、私立の学校に入ると考えていいか。

[県立学校課長]

- ・ 私立の方は22.4%になっていたと思う。その他は高専、特別支援学校の高等部等に進学する生徒もいる。

[町野委員]

- ・ 22.4%の私立進学者について、たとえば学科の名称変更や学科の人数等に関して、県としてどこまで関わっているのか。全く関与していないのか。

[県立学校課長]

- ・ 私立高校の学科の名称等は各学校の建学の精神に基づき設定され、教育課程も編成されているものと思っている。県教育委員会は公立学校を担当しており、私学は知事部局の私学担当の方で相談等に乗っているものと考えている。

[町野委員]

- ・ 知事部局である程度関わっているのか。

[県立学校課長]

- ・ 私学振興の方でやっている。

[教育長]

- ・ 私学は学術振興課が担当課で、そこで把握または支援などもしている。

○報告事項について

報告事項(1)関係

[町野委員]

- ・ 第1表の割合だが、有効数字が0.1%など一桁しかないと比較できないので、二桁にしてはどうか。二点目は、12ページの第2表だが、進学先別希望状況で学部の指導はデータ上ないのか。データは取っているのか。

[県立学校課長]

- ・ 取っている。

[町野委員]

- ・ 別途教えてほしい。

[県立学校課長]

- ・ 有効数字の二桁表示については検討させてほしい。

[町野委員]

- ・ 進学率は女性の方が高い。そういう時代になってきたということだろう。女子は短大が多いがそれでも進学が多い。

[山崎委員]

- ・ 以前からこの表については、男女の数がそれぞれ分けて書いてある。「男女別進路希望状況」でも男女分けて書いてあるが、これを基にどういう分析して、どのような対策をとってきたのか。多分していないのではないかと思う。そう考えると、男女に分けて表記するのはもうやらなくてもいいのではないか。

[県立学校課長]

- ・ 男女別を残す理由のひとつには、国の学校基本調査に男女別に出している資料があったので、それに準じ

て男女別データを載せているところだが、その活用、時代的なことも含めてこの表記については検討させていただきたい。

[村上委員]

- ・これとは別に、県内・県外別のデータは何かあるか。

[県立学校課長]

- ・学校基本調査の卒業後の進路状況調査では出てくるが、希望のところでは県内外の別は出てこない状況である。

報告事項(2)関係

[町野委員]

- ・荒木委員はどういった人か。この委員会と直接関係あるのか。

[県立学校課長]

- ・荒木委員は、富山県中小企業家同友会のダイバーシティ委員長を務めている。こちらでやっている「特別支援学校就労応援団とやま」の登録第一号の方である。

[大西委員]

- ・(2)検討事項の中に「学校、家庭、医療・福祉・保健・労働等の関係者の連携強化」とあるが、ここに「地域」という観点は入らなかったのか。

[県立学校課長]

- ・ここでは、関係者の情報共有と、連携協力した支援体制の充実などがあるかと思う。その他、ご指摘のように地域と連携したキャリア教育、生涯学習活動への参加もあるので、地域の観点も含めて取り組んでいきたいと思っている。

[大西委員]

- ・仕事上で、就労継続支援A型、B型に通っている方と会うことがあり、地域とのつながりが若干薄いのかな、施設任せなのかなという印象があったので聞いた。また、委員についても、福祉の関係者も挙げられてはいるが、社会福祉法人の代表の方がいないようだが、その辺りは考慮されたのか。

[県立学校課長]

- ・福祉関係では、NPOの富山ケアネットワーク事務局長の西村さんをお願いしている。西村さんは誰もが住み慣れた地域で安心して暮らしていける地域共生社会の形成に努めておられるので、放課後等デイや学校との連携にもご尽力をいただき、福祉の立場からの意見も期待しているというところをお願いした。検討の際には、社会福祉法人の方からもどうかということとは検討した。

[教育長]

- ・あおの丘理事長も就労支援に関する仕事をなさっている方だと思う。おっしゃるように、施設という意味では社会福祉法人の施設運営の方というのではないのかもしれないが、今ほど言ったように、検討の過程で、施設運営をされている方のご意見も取り入れる手立てを考えたいと思う。

午後1時58分、議事が終了したので教育長が閉会を宣した。